



東京アマデウス合唱団
第23回定期演奏会



ルネサンス・バロックの
イタリアの名曲

G. P. da Palestrina
Claudio Monteverdi
Domenico Scarlatti

Tokyo Amadeus Chorus

2004年10月30日(土)
カトリック麻布教会



ご 挨拶

本日は、お忙しい中をご来場頂き、団員一同厚くお礼申し上げます。

東京アマデウス合唱団は1980年創立以来、ほぼ毎年1回の定期演奏会を行い、本日23回目の定期演奏会を迎えることとなりました。


今回は、ルネサンスとバロックの時代のイタリアの作曲家から「パレストリーナ」「モンデヴェルディ」「ドメニコ・スカルラッティ」の名曲を選んでみました。

また、本日は、1991年から1997年まで毎回連続で、アマデウス合唱団のソリストとしてご出演下さった高橋節子さんを久し振りにお迎えすることとなり、団員一同大変嬉しく思っております。

水野先生の懇切なご指導と練習ピアニストの堀江和子さんの伴奏に助けられ、さらには毎回遠くからわざわざご来場頂きます方々を含め、皆様方からの暖かいご支援にも支えられて、少人数ながらも演奏会を開催出来ますことを、団員一同心から感謝いたしております。

今宵は、ルネサンスとバロックのイタリアのハーモニーをゆっくりとお楽しみ頂くことができれば幸いです。

(東京アマデウス合唱団 団長 柿沼 哲)




~~~~~ The Program ~~~~~

第1ステージ

1. Giovanni Pierluigi da Palestrina.....(1525?~1594)

- ・Alma Redemptoris Mater (祝福された贖い主の母よ)
- ・Regina Coeli (天の女王様、お喜びください)
- ・Loquebantur variis linguis Apostoli

(使徒達はさまざまの言葉で語っていた)

2. Claudio Monteverdi.....(1567~1643)

- ・Messa a quattro voci da cappella (礼拝堂用の四声のミサ)

————— 休 憩 —————

第2ステージ

3. Domenico Scarlatti.....(1685~1757)

- ・Iste Confessor (この主の証し人)
- ・Te gloriosus (誉れある使徒達の群れがあなたを誉め称えている)
- ・Laetatus sum (詩編121<122>私は彼らが嬉しかった)



(選曲 辻村順子)

指揮

水野克彦



東京芸術大学卒業。

ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。芸大バッハ・カンタータ・クラブに在籍中、小林道夫氏の薫陶を受ける。

日本オルガニスト協会会員。

ソリスト

高橋節子 (ソプラノ)



札幌大谷短期大学音楽科卒業、東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修了。在学中に芸大バッハカンタータクラブに所属。また、芸大定期、ハイドン「天地創造」にソリストとして出演。国際ロータリー財団奨学生としてドイツに留学。帰国後、日本声楽コンクールで田中路子賞受賞。《アンサンブルBWV2001》メンバー。二期会会員。藤田道子、戸田敏子、伊原直子、E.M.Meyerolberslebenの各氏に師事。

酒井理早 (アルト)



高知大学教育学部卒業、東京芸術大学声楽科卒業。現在、同大学院修士課程1年在学中。声楽を小原浄二、伊原直子の各氏に師事。学部在学中からバッハカンタータクラブに在籍し、小林道夫氏のもとに研鑽を積む。芸大バッハカンタータクラブ合唱インスペクター・アルトパートリーダー、高知バッハカンタータフェラインメンバー、東邦大学付属東邦高校合唱部ヴォイストレーナー。

伴奏

牧野ルル子 (チェロ)



東京芸術大学を経て同大学院修了。在学中に第50回NHK・毎日音楽コンクール入選。西独ケルン音楽院に留学。帰国後渡米、オハイオ州コロンバス市において、プロムジカ・チェンバーオーケストラに5年間在籍。帰国後、室内楽、オーケストラ、等の音楽活動を行い現在に至る。山川郁子、倉田澄子、堀江泰氏、ボリス・ペルガメンシチコフの各氏に師事。

堀江和子 (オルガン兼練習ピアニスト)



武蔵野音楽大学短期大学部ピアノ科卒業。

キリスト教音楽学校パイプオルガン科卒業。同研究科程修了。ピアノを水本雄三、野村文子、オルガンを高橋靖子の各氏に師事。現在、茗荷谷キリスト教会オルガニスト・聖歌隊伴奏者。

日本オルガン研究会会員。

東京アマデウス合唱団

- Sop 辻村順子・松本あおい・山形明子
- Alt 伊藤正子・大久保ルミ子・大友美佐・宮崎米子
- Ten 伊原 宏・小沢 仁・片岡 繁
- Bas 柿沼 哲・野口 碩



## ◀◀◀◀ 演奏会曲目解説 ▶▶▶▶

この演奏会では、イタリアのルネサンス後期からバロック期にかけて活躍した最も代表的な教会音楽の作曲家三人の作品を取り上げる。三人は年代も生まれ育った環境も違うが、小市民の子として激動の時代に生まれ、その稀にみる素質によって宗教曲の画期的な一ページを開いた点で共通している。

○最初にパレストリーナ (Giovanni Pierluigi da Palestrina 1525?-1594) の作品を三曲演奏する。この作曲家の通称が実はローマから程近い山の中腹にある小都市の名であって、ピエルルイジが本当の姓であり、それが貴族の名を貰った奉公人の家系であることを知るとき、彼が数奇な人生をたどったことを知るのである。ローマの前衛城塞都市であった街は常に平和な時は無く、13世紀には教皇庁に反旗を翻して滅ぼされてしまい、教皇の町として再興したのも束の間、15世紀には再び戦禍に見舞われ、同世紀後半に復興を見たものの、作曲者が生まれる前年にはパレストリーナ市がペストに見舞われた。ピエルルイジ一家はペストの災禍を逃れてローマで貸家を借りて滞在している間にジョヴァンニが生まれ、間もなくドイツ雇兵の略奪の難を逃れてパレストリーナ市に戻り、1536年11歳頃敬虔なキリスト教信者であった母パルマを失う。1537年にはサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂の教会付属学校に入学、父が再婚してもジョヴァンニの心には敬虔な亡き母の姿があった。彼が遺した聖母を称える曲には傷つきやすい子供の心を優しく受け入れてくれた彼の亡き母の面影の映し出されているのが感じられる。

◇Alma redemptoris Materは1584年に教皇の保護のもとに刊行された四声モテット集第2巻に含まれるもので、長男次男、弟、孫達に続いて最初の妻ルクレーツィアまでもインフルエンザで失って、ヴィルジーニア・ドルモリと再婚した彼が信仰の中で経験した神の赦しが、曲に投影している。曲は待降節の間や降誕節の晩課などで聖母にささげられるアンティフォーナの歌い出しと要所の旋律を活かして対位法とカノン風の展開を駆使し、華麗ではあるが原曲が持つ明るい極端な高揚を避けて穏和な、しかし陰影の深いポリフォニーに纏められている。恐らく待降節用に作られたものであろう。終結の<罪深き者をお憐れみください>には、試練から再婚のやむなきに至った作曲者の祈りが込められているかも知れない。

◇Regina Coeliは現存楽譜の書誌的見地からジョヴァンニが1565年から1571年にかけてローマ神学校楽長を務めた時代の作品と推定されている。受難週の聖土曜日の終課から聖霊降臨後の九時課までの聖務で歌われるアンティフォーナ用に作曲された。ソプラノとテノールが主として原曲グレゴリオ聖歌の旋律をモチーフにして歌い、そのモチーフを他のパートが対位法によって飾りながらポリフォニーを展開する。



◇Loquebantur variis linguis ApostoliはAlec Harman編集の(Ten Four-part Motets for the church's Year教会暦のための10の四声モテット集)から取り上げるもので、1563年作曲。1561年から1566年までサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂の楽長を務めた時代の作品である。聖霊降臨の月曜日のミサの集会祈祷の後で歌われるアレルヤ唱のついた唱句のグレゴリオ聖歌の旋律を応用したモチーフを各パートがフガートに模倣し合いながら展開する。使徒言行録2.4「一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した」とある聖句が基礎になっている。ジョヴァンニ・ピエルルイジはグレゴリオ聖歌の改革に携わった人物であるが、この作品の歌詞は改革前の歌詞の多様な姿をとどめている。

○次のモンテヴェルディ(Claudio Monteverdi 1567-1643)はその前半生をパレストリーナの後半生と時代を同じくしており、ルネサンス後期からバロック期にかけての過渡期に位置する。彼の生地はミラノ公国に属するロンバルディアのクレモーナで、弦楽器の製造で極めて有名な小さな商業都市である。彼は巷間の外科医を父として生まれるが、パレストリーナと同様に九歳で母を失い、父はその後二度も再婚する。1582年以前にクレモーナ大聖堂楽長マルカントーリオ・インジェニエーリの弟子に入り、マントヴァ公の宮廷にまずヴィオール奏者として就職し、その後音楽指導に当たった。その頃彼の作曲は主としてマドリガーレとオペラであった。1613年以降ヴェネツィアのサン・マルコ大聖堂の楽長に就任した時代が彼の教会音楽の公然と生み出された時期である。この間に1630年自分の仕えたマントヴァの宮廷は皇帝軍によって占領されて略奪に遭い、彼のマントヴァ公に捧げた未刊の作品はすべて失われた。そしてヴェネツィアではペストが流行し、四万人以上の生命が奪われた。避難先から戻った彼は、その後も教会音楽とともにオペラを世を去るまで作り続け、当時の彼の名声を支えるものはマドリガーレの最後の作曲家であり、オペラの最初の作曲家であるということであった。パレストリーナが教皇庁の権威によって作品を公刊したのと違い、そのような背景の無いモンテヴェルディは容易に教会の外に自分の作品を出さなかった。現在最もよく演奏される「聖母マリアの晩課」(Vespro della Beata Vergine)を始めとする彼の宗教作品がようやく見直されはじめたのは、二十世紀後半である。

◇Messa a quattro voci da cappella (礼拝堂用の四声のミサ)は1650年、彼の死後に一声、二声、三声、四声、五声、六声、七声及び八声の詩編歌集とともに公刊されたもので、〈Kyrie〉を構成する、二つの主題の絡み合った二つのモチーフがシュッツなどに見られるエコーのような効果を伴うフガートな模倣を繰り返しながら展開する手法が、そのあとの〈Gloria〉〈Credo〉〈Sanctus-Benedictus〉〈Agnus Dei〉を貫いて用いられている。典礼用のア・カペラの歌としてパレストリーナ風の古様式を守っているが、そこに通奏低音を導入したバロック的手法が導入されているのである。〈Gloria〉〈Credo〉の先唱とともに〈Agnus Dei〉の歌い出しと後半はグレゴリオ聖歌で歌う。



○ドメーニコ・スカルラッティ (Domenico Scarlatti 1685-1757)はモンテヴェルディの死後約四十年を経た時代にナポリの王室礼拝堂の楽長を務めていたアレッシンドロ・スカルラッティの第6子として生まれた。同じ年にセバスチャン・バッハとヘンデルが生まれている。1701年9月13日ナポリ王室礼拝堂オルガニスト兼作曲者に就任、1705年春ナポリを去ってヴェネツィア、1709年からはローマで過ごし、亡命中のポーランド女王マリア・カシミラ (Maria Casimira)の私設宮廷付音楽家、ヴァチカンのポルトガル大使デ・フォンテス (Fontes) 侯爵の宮廷音楽家を経て、1719年ポルトガルのリスボンにある総大司教礼拝堂楽長に成り、国王ジョアン (John) 5世の皇女マリア・バルバラ (Maria Barbara)と国王の弟ドン・アントニオ (Don Antonio)の教師を兼ねた。500曲以上の彼のチェンバロ・ソナタはこの教育のために書かれたのである。1728年マリア・バルバラがスペイン皇太子フェルナンド (Fernando)と結婚してマドリッドに移ったため、彼は御雇音楽家として、以後1757年7月23日死去までスペインで過ごした。

◇Iste Confessor Dominiはローマ在住時代の作品で、高位の聖職に在った証聖者のための晩課で使われる讃歌として歌われる目的で異文によって作られた。1715年4月11日の聖レオの祝祭と遺骸の移転のときは、聖ペトロ大聖堂の参事会員全員が、多くの歌手達とともにこの讃歌をうたいながら通りを行進して行った、とカーク・パトリックが書いている。そう言えば、この曲は2分の2拍子の穏やかな行進のリズムが感じられる。五節の歌詞が比較的短い同じ旋律で繰り返され、そのうち三節もがユニゾンで歌われるのは、行進のときの歌いやすさを配慮したと考えられる。

◇Te gloriosusはポルトガル在住時代に書かれた。この時代の声楽曲は1755年11月の震災のため自筆譜が全て失われてしまって、リスボンの大聖堂所属の図書館ではただ二曲の写譜しか伝えられていない。この通奏低音付モテットはその貴重な一つで、11月1日の諸聖人の祝日に歌われるアンティフォーナのために作曲された。曲は歌詞のフレーズごとにモチーフを変え、その内容によって速さや拍子を変えて分節的に構成されている。終結部はフガートによって歌い収められる。

◇Laetatus sumはポルトガル在住時代に書かれたもう一曲の作品で、ヴィソーサの公爵宮廷図書館に保存されている。詩編122篇 (ラテン聖歌では121篇)のテキストを、四声合唱とソプラノ・アルトの重唱がコンチェルト・グロッソ (合唱協奏曲)の方式で交唱しながら歌い進める。この詩編は月曜日の終課で交唱されるもの。コンチェルト様式を採用したのは、その交唱のイメージを表出するためなのであろう。

(文責 野口 碩)

## 東京アマデウス合唱団のご案内

(平成16年10月現在)

---

今回ご来場の皆様方の中には、すでにご存知の方々も多いかと思いますが、東京アマデウス合唱団を初めてお聴きになる方々のために、若干のご案内をさせて頂きたいと思っております。

東京アマデウス合唱団は、1980年に「モーツァルトのレクイエム」を自分達の手で演奏したいという夢を持つ、アマチュアの仲間達が集まって創立しました。

以来、モーツァルトのほか古典派の作品を中心とした宗教曲を、ほぼ毎年1回の定期演奏会で演奏してまいりました。

今年で24周年を迎えましたが、その間に演奏した曲の主なものを後のページに掲載しておりますのでご一読下さい。

この合唱団は、指導者の招聘・指揮者の選定・会場設定・演奏会の曲目選定・プログラム印刷・演奏する曲目の解説から訳詞に至るまで全てが団員の労力と団員だけの資金で成り立っており、手作りの演奏会を開催するユニークな合唱団としての存在価値を、団員一同が誇りとしております。

創立当初は多かった団員も、現在ではかなり少なくなりましたが、少人数ならではの珍しい曲を選別しながら、なんとか存続させたいという団員の強い意志に支えられて、現在に至っております。

今後の活動予定は次ページの通りですが、少人数でのアンサンブルと一緒に唄ってみたい方や興味のある方がおられましたら、是非とも練習会場にお出かけ頂き、練習状況等をご覧頂きたい(見学大歓迎)と願っております。

次ページ及び下記ホームページをご参照の上、是非ご来場頂きたく団員一同心からお待ちしております。

(事務局 大久保ルミ子)

---

[ホームページ]

<http://homepage2.nifty.com/Amadeus/>



# 今後の活動予定

## 第24回定期演奏会

2005年11月(予定) 場所 同仁キリスト教会(予定)

演奏曲目(予定)

HEINRICH SCHÜTZ

1. Kyrie, Gott Vater in Ewigkeit (SWV420)
2. All Ehr und Lob soll Gottes sein (SWV421)
3. Ich glaube an einen einigen Gott (SWV422)
4. Psalm 111 Ich danke dem Herrn von ganzem Herzen (SWV424)
5. Meine Seele erhebt den Herren (SWV426)

GEORG PHILIPP TELEMANN

1. Der Gott unsers Herrn Jesu Christi
2. Es segne uns Gott
3. Amen, Lob und Ehre

DIETRICH BUXTEHUDE

1. Erhalt uns, Herr, bei deinem Wort
2. Der Herr ist mit mir (選曲 辻村順子)

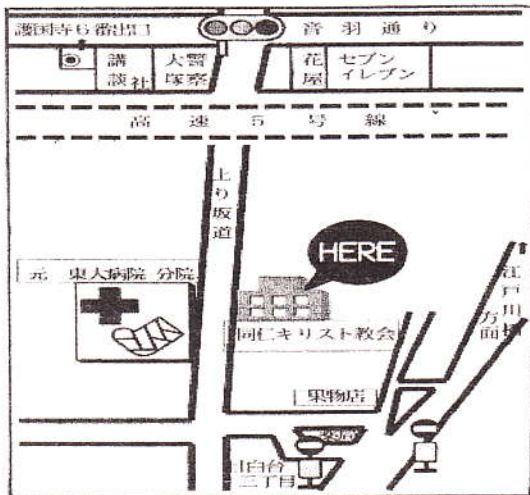
## 参加・見学ご希望の方へ

お問い合わせ先

辻村 順子 048-476-4056  
天久保ルミ子 03-3960-7714

練習会場 毎週水曜日 午後6時半～9時  
練習指導者 同仁キリスト教会 美登里幼稚園2F (下図参照)  
練習指導者 水野克彦  
費用 月額 4千円 (学生2千円)

## 案内図



○地下鉄有楽町線  
「護国寺」駅下車  
6番出口から徒歩5分

または、

○JR山手線目白駅より  
都バス「椿山荘またははぎ」で  
目白台3丁目下車徒歩3分

東京アマデウス合唱団演奏会記録

|       | 開催年月  | 主な演奏曲目                                               | 指揮者   |
|-------|-------|------------------------------------------------------|-------|
| 第1回   | 81. 2 | モーツァルト (レクイエム〈ジュズ74年版〉、アヴェ・ヴェルム・コルプス) 等              | 寺村 博司 |
| 第2回   | 81.11 | ヘンデル (メサイア)                                          | 渡辺 央己 |
| 第3回   | 82.11 | フォーレ (レクイエム)、ジョスカン・デ・プレ、ヴィクトリア、シュッツ等                 | 鈴木 優  |
| 第4回   | 83. 9 | モーツァルト (戴冠式ミサ、ミサ・プレヴィス220)、ヴィクトリア等                   | 黒木 英臣 |
| 第5回   | 84. 9 | モーツァルト (レクイエム〈ジュズ74年版〉、ミサ・プレヴィス194)                  | 黒木 英臣 |
| 第6回   | 85.10 | J. S. バッハ (カンタータ 106)、ブクステフーデ、ハスラー                   | 宮本 昭嘉 |
| 第7回   | 86.10 | モーツァルト (グローセ・ミサ)、ヴィクトリア (アヴェ・マリア) 等                  | 鈴木 優  |
| 第8回   | 87.10 | シュッツ (ムジカリッシェ・エクゼクイエン)、ハスラー (ミサ・セクンダ)                | 鈴木 優  |
| 第9回   | 88.12 | モーツァルト (ヴェスベレ339)、F. J. ハイドン (ミサ・プレヴィス) 等            | 齋藤 明生 |
| 第10回  | 89.11 | モーツァルト (レクイエム〈47年版〉、ミサ・プレヴィス140)                     | 齋藤 明生 |
| 第11回  | 90. 5 | ジョスカン・デ・プレ (パンジェ・リングウ)、ハスラー、A. ガブリエリ等                | 齋藤 明生 |
| 第12回  | 91. 2 | モーツァルト (リタニア243)、J. M. ハイドン (ヴェスベレ)                  | 齋藤 明生 |
| 第13回  | 91.11 | モーツァルト (ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ) 等                 | 齋藤 明生 |
| 第14回  | 92.11 | シャルパンティエ (真夜中のミサ)、シュッツ、ブクステフーデ等                      | 齋藤 明生 |
| 第15回  | 93.11 | モーツァルト (ミサ・プレヴィス 275)、アルブレヒツベルガー等                    | 齋藤 明生 |
| 第16回  | 94.11 | モーツァルト (レクイエム〈47年版〉、ミゼリコルディアス・ドミニ) 等—渋谷混声と合同         | 齋藤 明生 |
| 第17回  | 95.10 | J. S. バッハ (カンタータ 182)、ブクステフーデ (ミサ・プレヴィス) 等           | 齋藤 明生 |
| 第18回  | 96.11 | モーツァルト (ヴェスベレ339)、アルブレヒツベルガー、D. スカルラッティ等             | 齋藤 明生 |
| 第19回  | 97.10 | モーツァルト (ミサ・ソレムニス337、テ・デウム・ラウダムス) 等                   | 齋藤 明生 |
| 第20回  | 98.10 | J. S. バッハ (カンタータ 61、196)、D. スカルラッティ (四声のミサ) 等        | 齋藤 明生 |
| 第21回  | 99.10 | ラインベルガー (スタバト・マーテル)、J. M. ハイドン、ブルックナー等               | 齋藤 明生 |
| 第22回  | 00. 7 | ハスラー (ミサ・セクンダ)、F. メンデルスゾーン、ホミリウス等                    | 水野 克彦 |
| クリスマス | 00.12 | 四つのアヴェマリア (アルカデルト、ジョスカン・デ・プレ、ヴィクトリア、パレストリーナ)、W. バード等 | 水野 克彦 |
| 第23回  | 01.11 | モーツァルト (トリニターティス・ミサ)、F. J. ハイドン、J. M. ハイドン等          | 水野 克彦 |
| 第24回  | 02.10 | ドイツ・バロック (J. C. F. バッハ、シュッツ、ブクステフーデ、テレマン) 等          | 水野 克彦 |
| 第25回  | 03.11 | ラインベルガー (スタバト・マーテル)、アルブレヒツベルガー (ミサ・二長調) 等            | 水野 克彦 |
| 第26回  | 04.10 | D. スカルラッティ (レタートゥス・スム)、パレストリーナ、モンテヴェルディ等             | 水野 克彦 |



# 歌 詞 対 訳

**Giovanni Pierluigi da Palestrina**

Alma Redemptoris Mater  
Regina Coeli  
Loquebantur variis linguis Apostoli

**Claudio Monteverdi**

Messa a quattro voci da cappella

**Domenico Scarlatti**

Iste Confessor  
Te gloriosus  
Laetatus sum

*Tokyo Amadeus Chorus*

(文責 野口 碩)

第一部

Alma Redemptoris Mater 二長調 Giovanni Pierluigi da Palestrina

|                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Alma Redemptoris Mater<br>quae pervia caeli porta manes<br>et Stella Maris,<br>succurre cadenti,<br>surgere qui curat, populo.<br>Tu quae genuisti natura mirante<br>tuum Sanctum Genitorem,<br>virgo prius ac posterius,<br>Gabrielis ab ore.<br>Sumens illud ave,<br>peccatorum miserere. | 心ひろき贖い主の御母よ、<br>あなたは天の門をいつも開けて置かれるお方、<br>そして海の星(天の比喩)、<br>落ち行く者をお助けください、<br>思い煩う人々が引きあげられますように。<br>あなたは驚くべき自然によってお現しになったお方、<br>あなたの聖なる御父を、<br>以前も以後も処女でありながら<br>ガブリエル(天使)の言葉によって、<br>おめでとう、そのお方を受け入れて、<br>罪深き者をお憐れみください。 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

Regina coeli ト長調 Giovanni Pierluigi da Palestrina

|                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Regina coeli laetare, alleluia:<br>Quia quem meruisti portare,<br>Alleluia.<br>Resurrexit, sicut dixit,<br>Alleluia:<br>Ora pro nobis Deum.<br>Alleluia. | 天の女王さま(天の比喩)、およろこびください、アレルヤ。<br>(あなた)そのお方(キリスト)をもたらすに相応しかったお方。<br>アレルヤ。<br>(御霊)言われた通り、(あなた)よみがえられました。<br>アレルヤ。<br>私達のために神さまにお執り成しください。<br>アレルヤ。 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

Loquebantur variis linguis Apostoli へ長調  
Giovanni Pierluigi da Palestrina

|                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Loquebantur variis linguis Apostoli,<br>magnalia Dei,<br>prout Spiritus Sanctus dabat eloqui illis,<br>alleluja.<br>Repleti sunt omnes Spiritu Sancto,<br>et coeperunt loqui,<br>prout Spiritus Sanctus dabat eloqui illis.<br>Alleluja. | 使徒達はさまざまの言葉で語り告げていた、<br>神のすばらしい御業よ、<br>御聖霊(あなた)が彼らに語らせるままに。<br>アレルヤ。<br>すべての人が御聖霊に満たされて、<br>語り告げ始めた、<br>御聖霊が彼らに語らせるままに。<br>アレルヤ。 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

Messa a quattro voci da cappella Claudio Monteverdi

Kyrie

|                                                      |                                                  |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| Kyrie eleison.<br>Christe eleison.<br>Kyrie eleison. | 主よ、お憐れみください。<br>キリストさま、お憐れみください。<br>主よ、お憐れみください。 |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|

Gloria

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| [Gloria in excelsis Deo.] (グレゴリオ聖歌)<br>Et in terra pax hominibus<br>bonae voluntatis.<br>Laudamus te.<br>Benedicimus te.<br>Adoramus te.<br>Glorificamus te.<br>Gratias agimus tibi<br>propter magnam gloriam tuam.<br>Domine Deus, Rex caelestis,<br>Deus Pater omnipotens.<br>Domine Fili unigenite, Jesu Christe.<br>Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.<br>Qui tollis peccata mundi,<br>miserere nobis.<br>Qui tollis peccata mundi,<br>suscipe deprecationem nostram.<br>Qui sedes ad dexteram Patris, | いと高きところでは神さまに栄光がありますように。<br>そしてこの世では平和がありますように、<br>善意の人々に。<br>(あなた)あなたを誉め称えます。<br>(あなた)あなたを祝福します。<br>(あなた)あなたを崇めます。<br>(あなた)あなたの栄光を称えます。<br>(あなた)あなたに感謝します、<br>あなたの大いなる栄光のゆえに。<br>神であられる主よ、天の王よ、<br>全能の御父であられる神よ。<br>御ひとり子であられる主よ、イエス・キリストさま。<br>神にして、神の小羊、御父の御子であられる主よ。<br>世の犯した罪を取り除かれる主よ、<br>私たちに憐れみの情をお起こしください。<br>世の犯した罪を取り除かれる主よ、<br>私たちの罪の執り成しをお受け入れください。<br>主が御父の右に坐しておられるのは、 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



Quoniam tu solus Sanctus.  
Tu solus Dominus.  
Tu solus Altissimus, Jesu Christe.  
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.  
Amen.

### Credo

[Credo in unum Deum,] (グレゴリオ聖歌)  
Patrem omnipotentem,  
factorem caeli et terrae,  
visibilium omnium, et invisibilium.  
Et in unum Dominum Jesum Christum,  
Filius Dei unigenitum.  
Et ex Patre natum ante omnia saecula.  
Deum de Deo vero.  
Genitum, non factum,  
consubstantialem Patri:  
per quem omnia facta sunt.  
Qui propter nos homines,  
et propter nostram salutem  
descendit de caelis.  
Et incarnatus est de Spiritu Sancto  
ex Maria Virgine:  
Et homo factus est.  
Crucifixus etiam pro nobis:  
sub Pontio Pilato passus,  
et sepultus est.  
Et resurrexit tertia die,  
secundum Scripturas.  
Et ascendit in caelum:  
sedet ad dexteram Patris.  
Et iterum venturus est cum gloria,  
judicare vivos et mortuos:  
cujus regni non erit finis.  
Et in Spiritum Sanctum, Dominum,  
et vivificantem:  
qui ex Patre Filioque procedit.  
Qui cum Patre et Filio simul adoratur  
et conglorificatur:  
qui locutus est per Prophetas.  
Et unam sanctam catholicam  
et apostolicam Ecclesiam.  
Confiteor unum baptisma  
in remissionem peccatorum.  
Et exspecto resurrectionem mortuorum.  
Et vitam venturi saeculi.  
Amen.

### Sanctus - Benedictus

Sanctus, Sanctus, Sanctus,  
Sanctus Dominus Deus Sabaoth.  
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.  
Hosanna in excelsis.

Benedictus qui venit in nomine Domini.  
Hosanna in excelsis.

### Agnus Dei

[Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
miserere nobis.] (グレゴリオ聖歌)  
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
miserere nobis.  
[Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:  
dona nobis pacem.] (グレゴリオ聖歌)

あなただけが聖なるお方だからです。  
あなただけが主です。  
あなただけが至高のお方です、イエス・キリストさま。  
御父なる神の栄光のうちに居られる御聖霊と共に。  
アーメン。

私は信じます、唯一の神を。  
全能の御父を。  
天と地の創り主を。  
すべての見えるものと見えないものの創り主を。  
そして唯一の主イエス・キリストを。  
神の御ひとり子として生まれた御子を。  
そしてすべての世の成る前に御父から生まれたお方を。  
まことの神から出たまことの神を。  
作られたのではなく、生まれた方で、  
御父と一体であられるお方を。  
そのお方を経て全てのものが創られたのです。  
そのお方は私たち人類のために、  
しかも私たちの救いのために  
天から降って来られているのです。  
そして御聖霊によって肉体の姿になられているのです、  
処女であられるマリアさまから生まれ出て。  
それで人と成られているのです。  
私たちのために十字架にさえつけられました。  
ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受けられ、  
そして葬られました。  
そして三日目によみがえられました、  
聖書にあるとおり。  
そして天に昇られ、  
今御父の右に坐しておられるのです。  
そして栄光と共に再び来られて、  
生きているものと死んだものを裁かれるのです。  
そのお方の王権は止むことがないでしょう。  
そして御聖霊、すなわち主であられて、  
命を与えてくださっているお方を信じます。  
その御聖霊は御父から伝えられて御子に現れています。  
それは御父と御子といっしょにあげられ、  
かつたえられるでしょう、  
そのことは預言者によって語られています。  
そして唯一の聖なる公教の、  
かつ使徒から継承された教会を信じます。  
唯一の洗礼(バプティスマ)を承認します、  
罪の赦しのときの。  
そして死んだ者のよみがえりを待ち望みます。  
そして来らんとする世の命をも。  
アーメン。

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、  
聖なるかな、万軍の主であられる神は。  
天と地はあなたの栄光で満ちています。  
いと高きところにホサナ(今、ほめよ!)。

主の名によって来る者は皆むべきかな。  
いと高きところにホサナ。

世の罪を取り除く神の小羊よ、  
私達に憐れみの念をお起こしてください。  
世の罪を取り除く神の小羊よ、  
私達に憐れみの念をお起こしてください。  
世の罪を取り除く神の小羊よ、  
私達に平安をお与えください。

第二部

Iste Confessor

Domenico Scarlatti

1.  
Iste Confessor Domini,  
sacratus festa  
plebs cujus celebrat per orbem,  
hodie laetus  
meruit secreta scandere caeli.
2.  
Qui pius, prudens, humilis,  
pudicus, sobrius, castus fuit  
et quietus vita, dum pressens  
vegetavit ejus corporis artus.
3.  
Ad sacrum cujus tumulum frequenter,  
membra languentum modo sanitati,  
quo libet morbo fuerint gravata,  
restituuntur.
4.  
Unde nunc noster chorus in honorem  
ipsius hymnum canit nunc libentur,  
ut piis ejus meritis  
juvemur omne per aevum.
5.  
Sit salus illi,  
decus atque virtus,  
qui, supra caeli residens cacumen,  
totius mundi machina gubernat  
trinus et unus.  
Amen.

この主の証しびと、  
聖別された祝日よ、  
主の民が世界中で祝っている、  
この日こそめでたく、  
分離された者が天へ昇るのにふさわしい。

この方は敬虔で、聡明で、謙遜で、  
慎み深く、節度を守り、行いが正しかった、  
また、安らかな一生は、苦しみの中にも  
その体の肢体を生き活きと動かしていた。

彼の聖なる墓のそばに群がれば、  
肉体は病んだ状態をたちどころに健康にし、  
どんなに病に見込まれ悩まされようと、  
癒される。

そのゆえに今誉れのために我等の聖歌隊は  
自分達の賛美の歌をうたい、かつささげられる、  
敬虔なこの人の功績によって  
我々すべてがとこしえに喜ばれよう。

あの世で幸いがありますように、  
偉業と雄々しい働きがありますように。  
彼は、もろもろの天の頂に坐しながら、  
全ての世界の造化で支配し、  
三つにして一つのお方(キリスト)です。  
ア-メン。

Motetto: Te gloriosus

Domenico Scarlatti

Te gloriosus Apostolorum chorus.  
Te Prophetarum laudabilis numerus.  
Te Martyrum candidatus laudat exercitus.  
Te omnes Sancti et electi  
voce confitentur unanimes,  
beata Trinitas, unus Deus.

あなたを誉れ高い使徒達の群れが、  
あなたを誉むべき預言者達の群れが、  
あなたを試練に遭った白衣の殉教者達が賛美している。  
あなたをすべての聖別された者達と選ばれた者達が  
声をそろえて告白している、  
恵深き三位一体よ、唯一の神よと。

Laetatus sum (詩編 121)

- (1)  
Laetatus sum in his quae dicta sunt mihi:  
In domum Domini ibimus.
- (2)  
Stantes erant pedes nostri,  
in atriis tuis Jerusalem.
- (3)  
Jerusalem, quae aedificatur ut civitas:  
cujus participatio ejus in idipsum.
- (4)  
Illuc enim ascenderunt tribus Domini:  
testimonium Israel  
ad confitendum nomini Domini.
- (5)  
Quia illic sederunt sedes in iudicio,  
sedes super domum David.

私は彼らが嬉しかった。こう私に告げられたからだ。  
我々は主の家に行くであろうと。

我らの足は立っていた、  
あなたの大広間、エルサレムに。

エルサレム、それはあたかも都市のように築かれている。  
その関わり方はことごとく都市の関わり方。

なぜなら、そこに主の部族が上って来たからだ、  
イスラエルの証として、  
また主の御名を言い表すものとして。

そのゆえは、そこに裁きの御座があったからだ、  
ダビデの家の上に御座が。



(6)

Rogate quae ad pacem sunt Jerusalem:  
et abundantia diligentibus te:

(7)

Fiat pax in virtute tua:  
et abundantia in turribus tuis.

(8)

Propter fratres meos et proximos meos,  
loquebar pacem de te:

(9)

Propter domum Domini, Dei nostri,  
quaesivi bona tibi.

(10)

Gloria Patri, et Filio,  
et Spiritui Sancto.

(11)

Sicut erat in principio,  
et nunc, et semper,  
et in saecula saeculorum.  
Amen.

エルサレムが平和になることを祈るがよい、  
そしてあなたを崇める者にあり余る恵みがあるように。

あなたの御力で平和が生まれるように、  
そしてあなたのやぐらに豊かな備えがあるように。

我が兄弟達と我が仲間達のために  
私はあなたからの平安を告げつつ、

主の家、すなわち我らの神の家のために、  
あなたに幸いを願い求めた。

御父と御子と  
聖霊に栄光。

始めにあったように  
今も、いつも、  
いつの世までもありますように。  
アーメン。



東京アマデウス合唱団